

第二篇

第二十四師團 沖繩作戰記錄

註 本記録は第二十四師團生存者に依り終戦後留守業務部に於て作成せられたるものなり

第二十四師團沖繩作戦記録 目次

- 第一章 第二十四師團行動要旨
- 第二章 作戦前の状況
  - 第一 動員下令より沖繩本島上陸迄
  - 第二 沖繩本島上陸より原駐地出發島尻地區轉移迄
  - 第三 島尻地區到着より敵來攻迄
- 第三章 作戦經過の概要
  - 第一 敵の沖繩本島來攻より五月四日軍の總攻撃中止迄
  - 第二 首里戰線撤退より島尻地區轉移終了迄
  - 第三 島尻地區到着より戰鬥終焉迄

第一章 第二十四師團行動要旨

昭和十四年八月滿州哈爾濱に於て師團を編成同年十二月東安省に移駐爾來國境方面防衛に任ず（師團司令部は東安に位置す）師團の編合左の如し

第二十四師團司令部

第二十四步兵團

步兵第二十二聯隊

步兵第三十二聯隊

步兵第八十九聯隊

搜索第二十四聯隊

野砲兵第四十二聯隊

工兵第二十四聯隊

第二十四師團通信隊

輜重兵第二十四聯隊

二 昭和十九年七月六日動員下令七月十三日動員完結

師團編制の中歩兵各聯隊の一大隊、砲兵一大隊、衛生隊並野戰病院を欠除す

三 各部隊は自七月十三日 間東安及揚崗を出發し 自七月十九日 間下關及門司に上陸し下關及門司に宿營す

四 第一、第四野戰病院は門司に於て師團の編合に入る

五 自八月月上旬 間中頭地區の警備に任じ且陣地構築並に教育訓練を實施す

六 十月十日敵の初空襲を受く中頭地區中央の一六〇高地に戰鬥司令所を移轉す

七 第九師團の轉進に伴ひ師團は十二月十日乃至十二日の間現駐地出發

島尻地區に駐し其の防衛並に警備を繼承す

八 二十二年二月十一日歩兵聯隊其の他の編制改正を實施す

九 二十二年三月二十三日敵機動部隊の空襲を受く

十 四月一日敵は北飛行場正面より上陸を開始す

十一 四月十一日歩兵第二十二聯隊第六十二師團長の指揮下に入り戰鬥に加入す

十二 四月十四日師團は第六十二師團の右翼に進出すべく命ぜられ四月二十日戰鬥司令所津嘉山に進出各部隊は自四月二十日 間逐次前進し首里前線に到着す

十三 四月二十九日戰鬥司令所を首里城軍司令部洞窟内に移す

十四 五月四日總攻撃に方り敵を壓迫前進せるも攻勢中止の軍命令に依り攻撃前の陣地に據り持久態勢に轉移す

去春五月四日至五月中旬の間夜襲斬込等により敵に出血を興えつゝ、戦

斗を繼續す  
七五月二十七日日右翼方面即ち小那覇與那原方面に敵進出す  
大軍命令に基き日軍は五月二十九日島尻南部丘陵地帯に據り更に持久

戦を繼續するたぬ島尻地區に轉進を開始す  
九六月二日戰鬥司令所新垣に前進更に六日甲江城に前進す第一線部隊  
は西海岸より國吉、大里、與座、八重瀬嶽の線に陣地を占領し陣地  
の強化に努力す

一六六月十日八重瀬嶽、與座嶽中間地區より敵攻撃を開始せるも撃退す  
三自六月十四日間敵は一五七高地前面より進出し來り搜索第二十四聯  
隊力戰防禦す

二六六月十七日敵は我が全正面に接近し攻撃を加ふ  
三六六月二十三日各部隊と師團司令部間通信連絡杜絶し統一的戰鬥指揮  
不能となり部隊各個の戰鬥に移る

二六六月二十四日中央地區防備の諸部隊  
二六六月三十日甲江城戰鬥司令所陣地内に於て師團長以下幕僚、各部長  
等自刃す

第二章 作戰前の状況

第一 動員下令より沖縄本島上陸迄

師團は滿洲東安附近の警備に任じありしが昭和十九年七月六日動員を下令せられ同月十三日完結内地に轉用の爲同月十五日より逐次東安附近出發同月二十四日前後下關及門司に集結す本輸送中師團は南西諸島に到り台灣軍司令官の隷下に入るべき命令を受領し八月一日内地出發八月五日及六日に亘り那覇及渡具知四附近に上陸を完了し第三十二軍司令官の隷下に入る

第三 沖縄本島上陸より島尻地區轉移迄

一師團は中頭地區を警備すべき第三十二軍命令に基き概ね要圖第一の如く各部隊を配備し同地區の警備に任じつゝ築城及教育訓練等に専念し作戰準備の完璧を期す  
師團擔任地域の警備は良好に維持せられたり

二 陣地は凡て洞窟式とし野戰陣地を併用し上下一致の努力により昭和十九年十一月頃陣地は概ね完成の域に達し何時敵の來攻を見るも之に對應し得るの状況にありたり

三 陣地構築の進捗に従ひ軍、師團、各部隊に於て行ふ教育訓練は一通り實施せり

四 爾後更に作戰準備の完璧に向ひ邁進せんとしありたる際突如第九師團の抽出轉進に伴ひ師團は島尻地區に轉移を命ぜられ各部隊は十二月九日及十日夫々現在地を出發し十日及十一日島尻地區に到着し新任務につけり

五 此時期に於ける歩兵聯隊の編制裝備の概要左の如し

聯隊本部

歩兵二大隊

- 一大隊は歩兵四中隊、<sup>M</sup>一中隊、<sup>BIA</sup>一小隊より成る
- 歩兵一中隊は小銃約一七〇、<sup>L</sup>九、<sup>g</sup>重擲一二を有す



歩兵砲一大隊

RIA	大隊は	M G
中隊は	RIA	中隊は
RIA	一中隊、	M G
四を、	T A	一〇、
T A	一中隊より成り	B1A
中隊は	T A	一小隊は
T A	四を有す	B1A
		二を有す

通信中隊

(兵力約一六〇名)

六住民は食糧供出に障地構築作業に或は又各種勞務に能く軍事を理解し協力を惜しまざりき

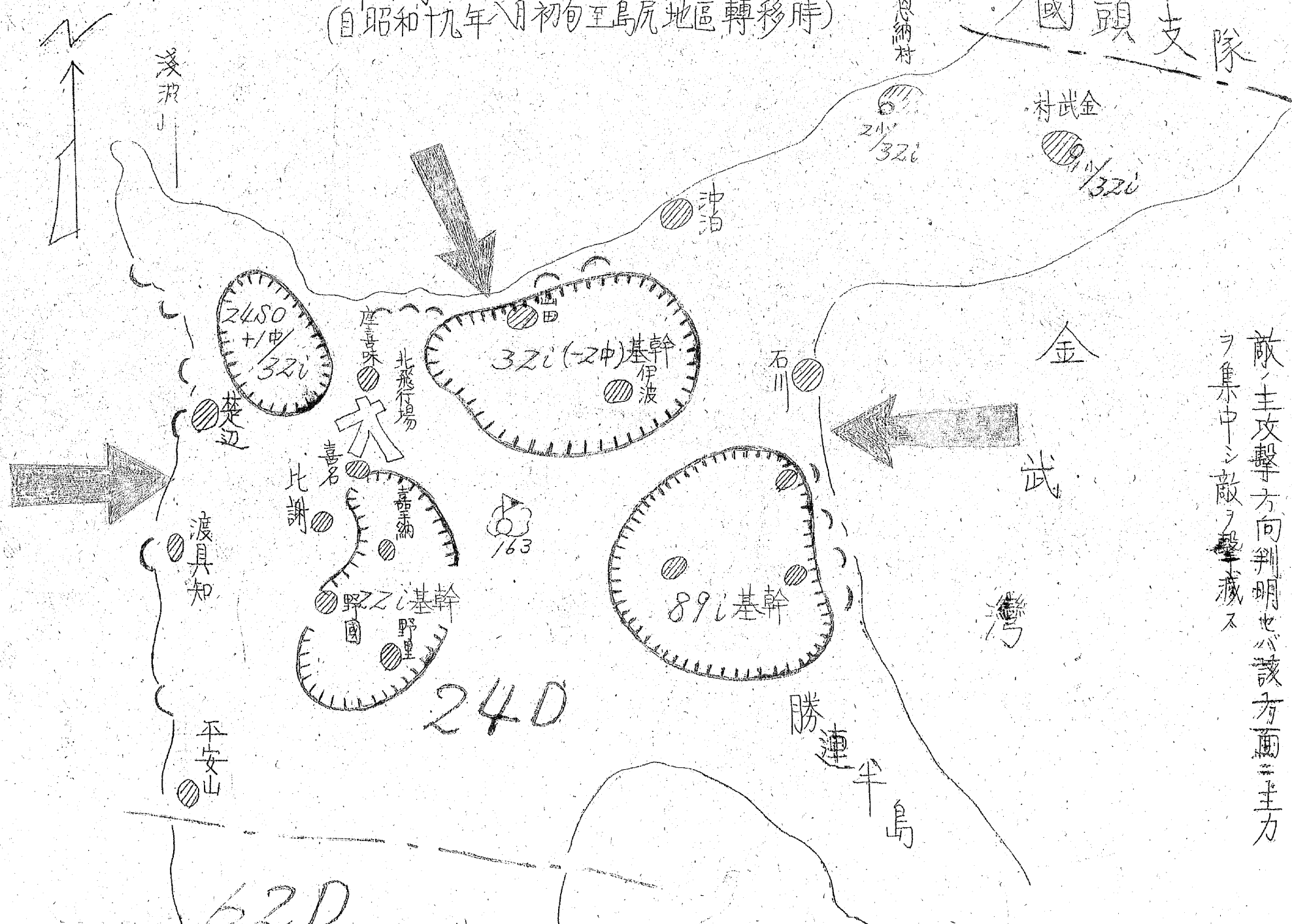
第三 島尻地區到着より敵來攻迄

一、師團は島尻地區轉移後概ね第九師團警備地區を繼承し要圖第二の如く各部隊を配備し警備を擔任すると共に作戰準備に邁進す

# 第二十四師團中頭地區配備要圖

(自昭和十九年八月初旬至島尻地區轉移時)

要圖第一



方針

敵ノ主攻擊方向判明也該方面ニ主力ヲ集中シ敵ヲ擊滅ス

62D



三 第九師團の實施せる築城進度は師團繼承時未だ約三十パーセントに  
り而して北部地區は所謂ドカン岩地帯にして作業比較的容易なるに  
反し南部地區は硬岩石地帯にして多量の爆薬を使用するに非ざれば  
作業極めて困難の地帯なりしも爆薬僅少にして作業遅々として進歩  
せず築城未完にして敵を迎ふるの止むなきに至れり

三 轉進後敵來攻迄の期間僅少なりしと築城の進度前項の如く遲滞しあ  
りし關係上教育訓練は之を徹底的に實施する事を得ず單に團隊長の  
露上研究を一回實施し得たるに過ぎず其の他は各部隊毎に築城即訓  
練の趣旨に基き又は部分教育を實施し得たる程度にして教育訓練を  
完了せずして敵を迎へたる状況なり

四 二月十一日各部隊の編制改正を實施せられたり此の結果歩兵聯隊の  
編制は左の如くなりたり

聯隊本部

歩兵三大隊 歩兵一大隊は歩兵三中隊、M 一中隊、BIA 一小隊より

成る  
歩兵一中隊は小銃約一七〇、Lg九、重擲一〇を有す

M G 中隊は M G 一〇を有す

B1A 小隊は B1A 二但し第三大隊は輕迫三を有す

聯隊砲一中隊 (聯隊砲四)

速射砲一中隊 (速射砲四)

通信一中隊 (兵力約一六〇)

五昭和二十年一月一日以降敵偵察機は殆ど連日飛來し又大、小規模の空襲を屢々受けたるも警備状況は殆ど完全にして損害も亦極めて僅少なり

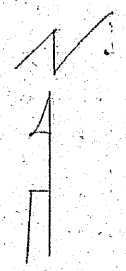
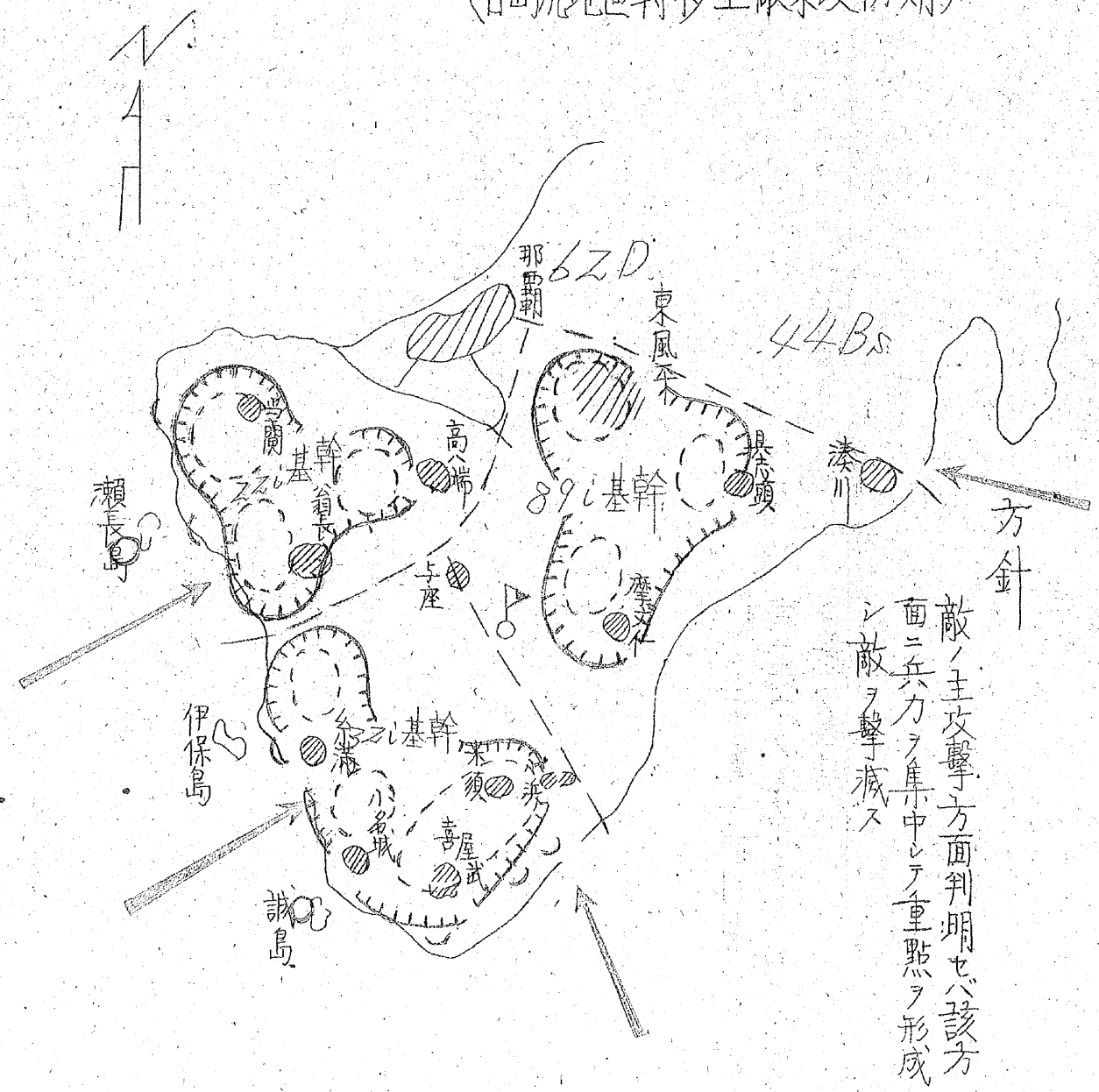
本住民は食糧供出に對戦車障害物構築に或は又各種勞務等積極的に能く軍事を理解し協力せり

少  
 大住民は食糧供出に對戰車障害物構築に或は又各種勞務等積極的に能  
 く軍事を理解し協力せり

# 第二十四師團島尻地區防禦配備要圖

(自島尻地區轉移至敵來攻初期)

要圖第二



第三章 作戰經過の概要

第一 沖繩本島上陸より五月四日軍の總攻撃中止迄

一、昭和二十年三月二十三日突如南方上空に敵機大編隊現出〇七〇〇頃より沖繩全島に對し爆撃を開始す師團は即時乙戦備を下合戰鬥配備に就く

二、三月二十四日朝來多數の敵艦船近迫し艦砲射撃を開始したるを以て愈々待望の敵來攻なりと判斷せられ軍の甲戰備發令に應じ要圖第二の配備を完了し愈々戦備を嚴にす

敵の銃爆撃、艦砲射撃は逐日熾烈の度を加へ其の目標は最初飛行場及村落なりしも逐次陣地破壊にも指向せられ特に小祿飛行場、與座、糸滿、湊川、東風平地區に於て熾烈なり

三、敵情判斷の結果敵は島尻地區小祿及糸滿正面には上陸する事なきも一部を以て湊川、米須海岸に上陸するやも測られざる予想の下に歩兵第八十九聯隊より湊川附近に歩兵第三十二聯隊より米須附近に夫

夫一部兵力を増加し防備の強化に努む  
軍に於ても三月二十八、九日頃一部砲兵を漢川正面に轉用し敵の上  
陸に備へしむる所あり

四敵は三月二十七、二十八の兩日に亘り〇七〇〇頃より一部の艦船及  
舟艇を以て漢川、米須海岸に對し上陸の徴を示したるも結局北谷方  
面よする眞上陸の陽動に過ぎざりき

五四月一日〇九〇〇敵は大型舟艇約一五〇隻小型舟艇約六〇隻を以て  
嘉手納、北谷海岸に上陸す其の兵力約二師團にして一四〇〇頃既  
に北谷、佐久川、中飛行場、吳富士、屋良、伊良場、座喜味の線に  
進出す

六軍命令に基き四月十一日夜歩兵第二十二聯隊を小祿地區より抽出し  
首里周邊地に集結し第六十二師團長の指揮下に入らしむ

七爾後四月二十二日に至る間敵の島尻地區再上陸を顧慮し各部隊を以  
て益々陣地の強化に努めしむると共に特に北正面に對し新に高良

書銘、志太備、波平、武育、保榮次附近に陣地構築す

八第六十二師團正面の戦況蓋の如くならざる状況に鑑み師團は軍の企  
圖に基き逐次同師團右翼正面に移動の準備を整ふると共に四月二十  
日戰鬥司令所を津嘉山に推進し爾後の戰鬥を準備す

九四月十七日歩兵第二十二聯隊は第六十二師團長の指揮を脱し原所屬  
に復歸せしむべき軍命令を受領すると共に右第一線兵團として第六  
十二師團と逐次交代し中間附近より東方地區を確保すべき命令を受  
領したるを以て歩兵第二十二聯隊を以て和字慶、上原、棚原の線(後

狀況の急迫竝に聯隊長の意見具申により我謝、小波津、翁長、幸地  
の線に改む)を確保して師團主力の進出を掩護せしめ主力を概ね左  
の如く逐次第一線に進出せしむ

師團戰鬥司令所 四月二十九日 首里

歩兵第八十九聯隊第三大隊 四月十五日 運玉森(師團直轄)

歩兵第八十九聯隊 四月二十八日 新川、南風原附近

(第三大隊は四月二十日復歸す)



歩兵第三十二聯隊第一大隊

四月二十三日

小湊津（師團覆轄）

歩兵第二十二聯隊（ⅡⅢ<sup>A</sup> 欠）

四月十七日

翁長、幸地

歩兵第三十二聯隊第二大隊

四月二十六日

前田北端賀屋支隊と交代

同聯隊主力（Ⅱ含む）

四月二十八日

前田北端より東方三又路附近迄確保

師團各部隊の四月二十八日頃<sup>62D</sup>右翼正面進出迄の行動概要及同日頃に於ける師團全般態勢概ね要圖第三の如し

第二十四師團行動經過後態勢要圖





大島尻地區出發より總攻撃直前迄に於ける主として各歩兵聯隊の戦斗  
經過概ね左の如し（要圖第三参照）

歩兵第二十二聯隊

イ 聯隊は四月十一日<sup>62D</sup>長の指揮下に入り同十七日原所屬に復歸す  
當時聯隊は運玉森周邊地區に在りたるを以て師團長は和宇慶  
上原I 棚原の線を確認し師團主力の首里附近進出掩護を命ず此  
の時聯隊長はI<sup>R1A</sup>及其の他の部隊を指揮して運玉森に來り、同  
時敵は既に和宇慶I<sup>ワシクン</sup>原I<sup>150</sup>高地附近に逐次進出し、<sup>62D</sup>  
は寡兵克く之と激戦中なり此の頃II<sup>II</sup>の状況不明なりしを以て  
將校斥候を派遣し搜索の結果IIは我如古東方高地線に進出せる  
も孤立無援に陥り來敵の攻撃を受け損害續出し兵力の大半を失  
ひたる状態なり且の状況は不明なり

ロ 前項命令に基く和宇慶I 上原I 棚原の線は其の後の状況及聯隊  
長の意見具申に依り我謝I 小波津I 翁長I 幸地の線に改められ